

平成25年度 第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 議事要旨

1 開催日時：平成25年8月7日（水）13：00～17：00

2 開催場所：和歌山県自治会館 3階305会議室

3 出席者

・委員

明石 純（医療経営学研究所所長）

坂本 すが（公益社団法人 日本看護協会会長）

瀬戸 嗣郎（静岡県立こども病院院長）

辻 省次（東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻神経内科学教授）

中川 武正（白浜町国民健康保険直営川添診療所所長）

乗杉 澄夫（国立大学法人和歌山大学副学長）

・和歌山県

中川福祉保健部長、野尻健康局長、大平医務課長

4 議事

（1）項目別評価の評価方法について

（2）平成24事業年度の業務実績評価結果案について

（3）財務諸表等の承認に関する意見について

（4）第3回評価委員会の進め方について

（5）その他

5. 議事要旨

（1）項目別評価の評価方法について

Sの評価が「中期目標・中期計画の達成に向けて、特筆すべき進捗状況にある」となっており、詳細な基準がないため、年度計画の記載事項が「すべてⅢ以上でⅣが相当数、目安として5割以上」と定義することとする。

また、評価委員会としては、ⅠからⅣの割合により機械的に判断するのではなく、「注」の記載（参考資料1を参照）を勘案しながら、総合的な判断をしていくこととする。

（2）平成24事業年度の業務実績評価結果案について

◇法人の自己評価に対し、評価委員が異なる評価を行った項目について

・資料2-1、2-2に基づき法人の自己評価に対し、評価委員が異なる評価をした項目について、議論を行った。

主な意見については以下のとおり。

◆資料2-2 1ページ 法人の自己評価 Ⅱ → 評価委員会の評価 Ⅲ

・医業収入確保という中期計画からするとⅣの評価で良い。

「病床利用率の向上」という年度計画の作成が不十分であった。

・診療収入が増加したのは、診療報酬改定によるものが大きいと考えられるので、すべてが法人の努力によるものとは言えないと思う。

病床利用率は、どれくらいが適正であるかという計画や目標値がないことが問題であり、Ⅳと評価するのは行き過ぎで、Ⅲが妥当である。

- ・診療の増収は外的要因が大きかったと思われるので、Ⅲが妥当である。
- ・中期計画と年度計画の双方を勘案した時に目標達成しているかは疑問であるので、Ⅲで評価したい。

◆資料 2-2 2 ページ 法人の自己評価 Ⅱ → 評価委員会の評価 Ⅲ

- ・担任制について、おそらくまだ担任として何をすべきかという合意ができあがっていないように感じる。また、普段の教育で接している人が担任になるべきところを敢えてしていないところに問題があると思う。
- ・学長がランチミーティングを実施していることについて、評価できる。

◆資料 2-2 3 ページ 法人の自己評価 Ⅳ → 評価委員会の評価 Ⅳ

- ・オープンキャンパスの人数制限を緩和したことは、これで普通になったという認識である。また、出前授業についても増加していないので、Ⅲの評価が妥当である。
- ・出前授業の参加者が少ない。
- ・出前授業の回数は評価できるが、中学生・高校生を対象とするのであれば、30代のスタッフが出前授業の講師にするといった、ひと工夫が必要ではないかと思われるので、Ⅳの評価は高いと思う。
- ・オープンキャンパスの参加者は増加しており、出前授業のタイトルも工夫されているので、Ⅳの評価のままでも良いのではないかと思う。
- ・学長が先頭に立って出前授業を実施しているという学長の思いや努力は評価できる。

◆資料 2-2 7 ページ 法人の自己評価 Ⅲ → 評価委員会の評価 Ⅲ

- ・保健看護学研究科博士後期課程開設の認可について評価し、Ⅳでも良いのではないかと思う。
- ・保健看護学研究科博士後期課程開設については、予定より前倒して開設したわけではないので、Ⅳという評価ではなくⅢで良いと思う。

◆資料 2-2 8 ページ 法人の自己評価 Ⅲ → 評価委員会の評価 Ⅲ

- ・オフィスアワー制度を設けていることはどの大学でもしていることなので、Ⅲで良いと思う。
- ・カウンセリングルーム利用者の増加は、評価できる。

◆資料 2-2 9 ページ 法人の自己評価 Ⅱ → 評価委員会の評価 Ⅱ

- ・P u b M e d 収録論文数が増加していることについて評価できるが、教員 1 人あたりの数としては、もっと頑張らないといけないと思う。
- ・英語原著論文の数より質で評価したい。
来年度からは、P u b M e d に収録された論文を書いた教員の人数についても記載してほしい。

◆資料 2-2 10 ページ 法人の自己評価 Ⅳ → 評価委員会の評価 Ⅲ

- ・理事長のリーダーシップがあることは非常に良いが、逆にその次の階層のクラスがそのリーダーシップに依存しているように見受けられ、機能発揮できていないように感じる。
また、「経営管理体制の強化を図る」という計画に対して、会議の内容が羅列されており、Ⅲの評価だと思う。
- ・年度計画に対して実施状況に関する法人の自己評価が、どうしてⅣになったのかが実施状況の記載では分らない。

◆資料 2-2 12 ページ 法人の自己評価 IV → 評価委員会の評価 III

- ・教員の評価制度について、公平性と透明性が高まったのか、職員の意欲向上に繋がったのかについてアンケート実施する取組があればいい。
- ・評価制度を導入したことは良いことであるが、それだけではⅢの評価ではないか。Ⅳとするにはアウトカムの測定等が必要である。
- ・年度計画は、評価制度の確立となっているので、ストラクチャー（制度）を作ったことを評価する。
- ・評価制度は評価職種ごとに記載されているが、今の医学部臨床系の教育の場合、個人プレーだけではなく教室全体でどれくらい取り組むかということもあるので、そういった評価もあるといいと思う。

◆資料 2-2 13 ページ 法人の自己評価 IV → 評価委員会の評価 III

- ・医業収入の増加に繋がる分析をしなければならない項目であるにもかかわらず、会議の議題を羅列している。本来はどういう分析をしたのかということを探りしなさいといけない。経営分析の内容についての追加資料を依頼したが、統計の項目を挙げているだけのものであるため、評価はⅢで良いと思う。
- ・「急性期看護補助体制加算」や「患者サポート体制充実加算」の算定については、特に導入が早いわけではない。各種の対策を講じ医業収入の増加に繋げるという年度計画の中の1つの大きなアウトカムとして、上記のような診療報酬加算を取得したと言っているのであれば、通常行われている普通の経営努力であり、高い評価はできない。

◆資料 2-2 21 ページ 法人の自己評価 IV → 評価委員会の評価 IV

- ・大学院のカリキュラムで色々努力されているのは評価できるが、大学院修士課程・博士課程の定員充足率が90%を下回っている。この問題が解決されるまでは、Ⅳという評価は難しいのではないと思う。
- ・MD-PHDコースを設けたことについては、学生にとって良いものを作ろうということで工夫している。これだけの大胆なものを作ったことについて評価できる。今後は、中味をどう充実させていくかが課題である。

◆資料 2-2 22 ページ 法人の自己評価 III → 評価委員会の評価 IV

- ・ベストクリニカルティーチング賞の制度は、若手中堅にとって励みになり、インパクトのある制度であり、Ⅳの評価にした方がいいと思う。

◆資料 2-2 28 ページ 法人の自己評価 IV → 評価委員会の評価 IV

- ・現場の医師等の頑張りにより診療収入が増加し、医療材料費が相対的に下がったと思われ、おそらくその影響が大きいと考えられる。医薬材料等を同じ材料・分量を購入していた場合にどれだけ安く購入することができたという分析ができていないので、年度評価としてはⅣであっても良いかもしれないが、中期計画から見ると不十分であると思う。

◇平成24事業年度の業務実績に関する評価結果（素案）について

- ・資料1の評価結果（素案）に基づき、議論を行った。主な意見については以下のとおり。

◆資料 1 3 ページ～ 【教育】

- ・MD-PHDコースについては、今後学生が入りたいというような内容にブラッシュアップしていくことが大事である。
- ・国立大学法人の場合、定員充足率が90%を下回っていると、遅れているという評価になる。

◆資料1 5ページ～ 【附属病院】

- ・理事長の献身的なリーダーシップは非常に素晴らしいところであるが、そのリーダーシップに依存していることが問題でもあり、管理職層が機能しているかどうかの問題である。
このことについては、提言にも記載していただきたい。
- ・MRS Aの増加やがん拠点の病院であることから、感染症科や形成外科がないところが気になる点である。

◆資料1 5ページ～ 【地域貢献】

- ・県下の医療施設の支援等に関する地域医療貢献や災害医療に対する項目立てがないため、評価ができない。
- ・中期計画を踏まえた年度計画であるので、上記の項目については、次年度以降年度計画に記載していただきたい。

◆資料1 8ページ～ 【自己収入の増加】

- ・「適正な経営分析を行うとともに、各種の対策を講じ、医業収入の増加につなげる」という年度計画に対する実施状況の記載が、議事の次第や議事録の羅列となっており、年度計画に対する実施状況が明確に分からない。実施状況の記載方法のことについては、提言にも記載していただきたい。

◆資料1 9ページ～ 【安全管理】

- ・基幹型の災害拠点病院として、和歌山県全体の災害医療について考えないといけないが、年度計画にはそのような記載がないので、その部分は評価ができない。

◇平成24事業年度の業務実績に関する評価委員会における提言（素案）について

- ・資料3の評価結果（素案）に基づき、議論を行った。
主な意見については以下のとおり。

◆資料3 1ページ～ 【附属病院・地域貢献】

- ・ケアマインド教育のさらなる充実ということをテーマにして提言で記載することとしたい。
- ・がんの死亡率をどうするか、予防をどうするかというスケールの大きい取組も必要である。
医学部の定員増については、教員1人1人の努力でできる部分も超えてきているので、大きな視点で見えていくことも必要である。

（3）財務諸表等の承認に関する意見について

- ・資料4-1、4-2について事務局より説明を行った。
委員からの主な意見については以下のとおり。

- ・2, 177, 822千円の利益については、目的積立金として整理し、用途については教育・研究、診療行為以外にも留意していただきたい。
教員の負担も大きいので、教員組織をどう改善していくかといった議論も必要である。

（4）第3回評価委員会の進め方について

- ・法人に意見照会をした内容を受け、可能であれば評価委員会の開催ではなく書面審議としたい。